

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900535		
法人名	社会福祉法人 永山会		
事業所名	グループホーム天寿		
所在地	京都市伏見区桃山町遠山37-3		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670900535&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所されている方々と、職員との関係が「利用者」と「介護者」の域を越えた厚い信頼と思いやりで繋がっていること。また御家族様の当事業所に対するニーズを重く受け、互いに協力しあって皆様のケアを実践している。また、今では少なくなった、住宅改修型のグループホームに対する認知症介護における責任と期待、役割を理解し実践できるよう努めている。庭には畑があり、広い庭を活用した行事も数多く行い、季節の行事を大切にしている。また日々の日常生活の中でのお出掛けや生活活動(家事)を大切に、生活感溢れる「普通の生活」を大切に、皆様と職員が共に支え合い、天寿の「生活」を送っている。地域の方と御家族と、介護職員が力をあわせて入居者様を支えていこうとする思いの強さがグループホーム天寿の誇れるところである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の民家を改造し、庭やサンルームは開放感があり、台所やリビングは家庭の雰囲気そのまま残され温もりが伝わってくるホームです。利用者一人ひとりのごく普通の暮らしが、理念にある「明るく、楽しく、美しく」歳を重ねる日々になるように、管理者と職員がひとつになり、共に居心地よく過ごせる場所としてより良いサービス提供ができるよう熱い想いでケアに当たられています。支援は担当制を取り、利用者と職員が家族のように信頼関係が築かれ、また担当以外の職員もそれぞれの利用者の個性や状況を把握し連絡を取り合い情報を共有しています。少人数のアットホームな手厚い対応の中で、利用者の方々は庭での食事や毎日の外出を楽しまれ、明るい職員と安心して過ごされています。また地域との交流も深く、良好な関係が継続されているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「明るく・楽しく・美しく」はもとより、天寿独自で掲げた理念「居心地の良い場所で生活を」を大切に普段のケアに努めている。入居者様にとっても、働く職員にとっても居心地良い場所でありたいと願っている。	ホーム独自の理念は「入居者がホームや地域の中で居心地良く暮らし、ここに居る価値を見出してもらいたい」という職員の想いを一文にまとめて作りました。毎月のカンファレンスでは理念に添ったケアがなされているかを毎回振り返り、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に属し、町内や地域の行事には積極的に参加させて頂いている。又回覧板は利用者様と共にお届けするなど、対面し入居者様のご近所の方とご挨拶を交わせる機会を持っている。地域の方々からの温かいご支援をいつも感じている。	近所への散歩や挨拶、声かけ、小学校の通学路の掃除、古紙回収の協力等、普段の生活の中で自然に交流できる機会が多くあります。また近所の方々からは気付いたことがあれば知らせてもらったり、お花を持ってきてくれるなど、色々気遣いを頂ける関係づくりができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講義などを開くなどの貢献は出来ていないが、認知症高齢者のイメージを払拭していただけるよう、ご近所へ外出する機会を維持している。またボランティアによる催しにご招待をした。参加下さった方もいらっした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的な出来事や発生した事故についてもご報告し、ケアの内容や行事、お出掛け先についてなどご相談させていただく事が多い。また消防などの非常災害時の対応についても、ご意見を下さり、それを参考にマニュアル作成をさせていただいた	家族、民生委員、地域包括支援センター職員、法人本部、管理者などが参加する運営推進会議を二ヶ月に1回開催しています。ホームの現状報告や相談、意見を聞き、毎回参加者より沢山のアドバイスをもらい、活発な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	住所地の区役所様はじめ、京都市様との密な連携は取れていないのが現状であるが、相談したい事がある場合はお電話にて相談させていただく事が時折ある。	運営推進会議の議事録を区の担当者へ渡しに出向いています。管理者が入居についての制度的な質問をしたり、法人が経営方針について介護保険課に何度も足を運んで相談しながら運営しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉の施錠は入居者様および併設のDSご利用者様の生命の保持、安全確保、危険回避の観点から行なっている。これに関してはご双方のご利用者の御家族様に契約時に了承を得ており、運営推進会議でも何度も議題とし話しあった上での実施となっている。可能な限りは日中は開放出来るよう努めている。	職員同士の会話で、事例を挙げ日々拘束について話し合っています。窓の施錠は、カーテンを全開することで開放感を残したり、広い庭を自由に散歩してもらったり、職員が外出に付き添ったりしています。門扉の施錠などは家族に相談したり、運営推進会議でも検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の開催する全体会議の中で虐待についての講義があり、出席職員は講義の後、研修レポートとして提出し、理解を深めている。桃山地域包括支援センター、その他より情報があれば、出来る範囲で協力するよう努めている。また情報交換を行なう機会もある。		

グループホーム天寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「学ぶ機会」を設けられてはいない。個人努力に委ねてしまっているところがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはお時間を頂戴し、時間を掛け丁寧に説明し質問等を伺った後に捺印いただくように努めている。但し、今回の廃業に関しての記述が契約書内には設けられていなかった為、御家族様ご入居者様には多大なご迷惑をお掛けする結果となってしまった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けたり、定期的なご連絡も欠かさないよう努めており、苦情やご意見を頂戴できる体勢は用意している。また運営推進会議には御家族様交代でご出席くださっており、その機会にもご意見をいただけるように努めている。	家族の面会簿と外出届にメモ欄を設け、気付いたことや要望を書き添えてもらうよう依頼し、それを職員全員に回覧しています。面会時の直接の会話も含め、出された要望は担当と話し合い、速やかに対処できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員間の会話が多く、問題点や疑問点があれば法人本部への問い合わせを管理者及び個人から行なえるようにしている。しかし現場の声が法人本部には中々届かず、課題や処遇等の改善や不満解消までには至っていないのが実情である。	毎月のカンファレンスで業務内容を話し合い、職員には率直に意見を出してもらっています。日頃からコミュニケーションの機会が多い為、職員同士にまとまりがあり、管理者との関係も円滑で、話し合いがより良いケアに向けた業務改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者である理事長、また施設長が訪問される機会が皆無であり、左記の項目に対して疑問がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の通り、代表者の意向や思いは把握できない。事業所内にて学習する機会や日常場面でトレーニングを欠かさないよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	天寿に届く交流機会となる研修やグループホーム協議会等の案内に参加希望の意志を法人に示し、参加許可を得た上でそれらの活動、行事に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	対象の方のこれまでの生活、得意で合った事、鋤であった事など細かな情報を御家族様や居宅ケアマネージャー様より情報を収集し、御本人はもとより御家族様のニーズを事前に伺った上でご入居当日を迎えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じく、事前に御家族様ともご面談させていただき、ご入所に至る経緯やご本人の生活歴、御家族様のご事情等、可能な範囲でお伺いし、ご入居のご準備を開始頂くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面接や情報により必要とされている支援を理解できるよう努めている。また御家族様と一緒にボランティア様や訪問マッサージ、往診や訪問歯科の導入等についても見当し、要望に応じて導入対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には小姑のように口やかましく、時には共に笑い、泣き、一緒にお出掛けし、共通の作業を通してより家族に近い関係を目指し努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は基本御家族様によるものとしおねがいし、面会機会の多少の差が大きくなるように留意している。また行事企画は御家族様の参加を念頭に置き、ご案内もお送りし、ご参加している。入居者様と御家族、職員皆が共有できる時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様全員が出来ているとはいえないが、昔お住まいであったお家のご近所様、古いご友人、ご親戚の面会がある方がおられる。また御家族様がお連れだし下さり、昔馴染みの関係が途切れないよう尽力くださっており、ご協力頂いている。	入居者が住み慣れた地域へ散歩や買い物に出かけたり、寺社参り、行事への参加を通して昔よく訪れたところ、経験したことを懐かしんでもらえるように支援しています。出かける際はなるべく公共交通機関を利用し、景色からも思い出し楽しんでもらえるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても相性の善悪というものは避けて通れないものであるが、共同の作業や分業制を導入し、各々のご入居者様の得意を活かし、互いに尊重し合える雰囲気や生活機会を作っている。また毎日昼食前は全員が集合し、「お食事前の体操」と称し、楽しい集団レクリエーションの機会を設けている。皆様、拒否される事なく楽しみにされており参加くださっている。		

グループホーム天寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季刊紙をお送りしたり、行事に参加いただいたり、お手紙を頂戴したりと、ご利用が終了しても、継続していける関係作りには留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を基本としており、各ご入居者様には担当職員をつけている。その職員が物品管理を始めとする細やかな生活管理をすることとしており、小さな気づきがあった場合には声を挙げ、全員で問題解決や、本人の思いを知るためのカンファレンスを開く事としている。	センター方式を使用し、入居前に家族に生活歴や趣味などわかる範囲でシートに記入してもらい把握しています。それらのシートを基に入居者との会話を広げたり、対応を配慮し、気付いた事を担当が加筆しています。担当制を取っていますが、他の職員との情報交換を密に行い、一人ひとりの意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前には管理者が事前面接を行なった情報を参考に、ご入居後は日々の暮らしの中で垣間見ご様子、御本人様の会話を記録し職員間で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録をこまめにとり、把握に努めている。定期的な健康チェックは欠かさず、会話する機会を多くもち精神状況を読み取れるよう心掛けている。有する力を把握する為、様々な事をご入居者様と共に作業するよう心がけ、それにより「出来る事・出来ない事」「困難な事」「本人が好まない事」を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なサービス担当者会議の開催、ケアカンファレンスを始め職員間の情報の交換機会が多く、計画作成担当者への報告も頻回に行なえている。個人のケアプランは天寿職員皆の情報を素に立てられており、内容把握し全ての職員がそれを実践できるように丁寧に細やかに作成されている。	利用者、家族の希望や往診医の意見を聞き、日常生活の課題についてカンファレンスで話し合い、介護計画を立てています。計画は独自で勘案されたモニタリング用紙で評価を行い、担当者会議を開き、三ヶ月に一度見直しを行っています。日々の介護日誌は常に計画を見ながら記入し、ケアに反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録、ケアカンファレンス、申し送り簿等を活用している。記録は全職員が確認できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの募集と往診、訪問歯科、訪問マッサージを導入。また介護用品購入の際にもアドバイス頂けるよう業者との関係も築くことが出来た。		

グループホーム天寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には必ず参加することとしている。公園掃除や地蔵盆、お祭り、運動会等		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム入所後も、通いなれた気心の知れた医師との関係を大切に、無理な変更は依頼しない。御家族様と御本人の状況、ご希望に応じて往診や専門医への紹介をさせて頂いている。	入居時に今までのかかりつけ医とホームの協力医療機関との希望を聞き家族に決めてもらっています。協力医の往診は月1回、法人の病院とは緊急時、夜間、24時間対応可能となっています。その他訪問歯科も必要に応じ受け入れています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師及び法人本部当別養護老人ホームせせい苑医務にも電話での相談を行うなど支援を受けながら努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	左記の通り支援をしている。電話である事が多いが可能な限り、連絡を取り合い、退院、治癒へ向けて協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、契約を交わす際に御家族様のご意向確認と住宅改修型グループホームのケアの限界についてもご説明し、ご理解いただいた上でご入所頂いている。「当グループホームでのケアの限界」については運営推進会議で議題として取り上げる機会が多く、ご相談させて頂いている。	入居時に行う重度化についての相談の際、要介護度を基準に当該ホームでの生活の限界を説明しています。またその時期になった際には再度話し合いの機会を設けています。職員間ではサービス担当者会議やカンファレンスで利用者の状況を確認し介護方法を共有し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、対応できるようマニュアル作成し、名札サイズにし全職員へ配布している。避難訓練の際に、左記の内容の講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を消防署の協力の下行っている。地域に住む当事業所職員(パートタイマー)には緊急時の第一連絡先として協力してもらっている。運営推進会議を通じ、体制構築に対してのアドバイスも頂いている。	年に2回消防署立ち合いのもと、昼夜を想定して消防訓練を行っています。運営推進会議で訓練状況を報告したりマニュアルを見てもらい、意見を聞きながらよりスムーズな避難ができるよう地域の方と一緒に安全策を考案しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	左記の内容に関し、常に意識をし努めているが、時と場合により適切でない言葉掛け、対応がされている事もある。職員各々が互いに指摘しあい改善できるようにしていく必要がある。	言葉遣いは基本的に敬語を使うよう意識していますが、信頼関係の中で親しみのある言葉を使うことがあり、それが行き過ぎる場合はその場で注意合っています。またその方が好まれる呼び名については必ず家族に確認してから使うように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	努めている。御本人判断が困難と思われる際には御家族様のご協力を頂戴したり、御本人様の特性等を鑑みた上で職員が判断する場合もある。常にご入居者様の意志が何かを感じ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援に努めている。好きな事、得意な事を把握した上で提供させていただく場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おおいに努めている。訪問カット、季節に合わせて一緒に衣類の買い物にも出掛ける。御本人の「欲しい。」という欲求に気づけるよう努力し、購入させていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月～金曜日は基本的には法人本部の栄養士が立てた献立になっているが、行事や必要に応じてはそれを中止し独自で、ご入居者様の嗜好に合わせた食事とする場合がある。土日の献立はグループホームの食事担当が中心となり、皆様の好みや希望を考慮したうえで献立を立て、生協で食材を購入している。	栄養士の献立以外の朝・夕食や土日は食材を利用者と一緒に行き、献立を決めています。できる方には調理の手伝いや片付けをしてもらっています。気候の良い日は庭で昼食を摂ることが多く、職員も利用者と同じものを一緒に会話をしながら摂り、楽しい食事時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ここの食事の嗜好も踏まえての把握に努めている。水分摂取に関しては特に職員が「小姑」となり、促し摂取頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、誘導、実施を行っている。その際に口腔内の観察を行っている。		

グループホーム天寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢により便秘の方が多く、ご入居者様の殆どが緩下剤を服用されている。常時失禁の見られる方も殆どであり、外出機会の維持の観点からも現状は全ての入居者様がリハビリパンツ着用をされている。ただし導入に当たっては毎回慎重に検討し、ご本人の御了承を得るようにしている。トイレには皆様自ら通われているし、トイレでの排泄を促している。	日々の排泄チェック表にて個々の排泄パターンやしぐさなど普段の行動を把握しタイミングを見てトイレ誘導を行っています。オムツの方はおらず、失敗を防ぐために適宜ポータブルトイレを使用するなど、個々に合った自立支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量、運動、生の果物や繊維質のものを摂取いただくようにしたり、腹部マッサージも心掛けているが殆どの方が医師から処方された緩下剤の服用をされている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆様一日毎の入浴を確保している。その日のご気分や希望で中止する場合もある。また活動量、汗の量に応じて、毎日入浴いただくことも合った。現状、ご自分から「入浴したい」と口にされる方はいらっしゃらないが、訴えが合った場合に依る体制はある。	午前中はホーム、午後はデイサービスの浴室を利用しています。夜間入浴も希望があれば対応できます。入浴を拒否される方には着替えの準備を一緒にしたり、足浴から始めるなど無理のない誘導を行っています。また入浴剤はその方の好みに合わせて使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドが苦手な方には昔馴染みのお布団での安眠を、腰痛や起き上がり困難な方にはベッドでの睡眠をお勧めしている。ベッドへの移行が必要となった方には、計画を立ててご本人が慣れられるまでの慎重な取り組みを行なっている。レンタルの介護用品の検討、レンタルも導入している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や目的は職員間で共有している。変更があった場合には処方箋の写しの用意と、日常記録、申し送り簿にて全員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に意識を持ち、努めている。日々のご様子などからもこれらのヒントを得て、早急にケアへ組みこんでいる。個人様の完成させられた作品、共同制作したものを作品展に出展するなど、「やりがい」を持っていただくことを念頭に置いたこともあった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人からの直接的な「何処へ行きたい。」との訴えはあまり聞かれないが、お天気や皆様のご体調、お買い物等目的を持ち出掛ける機会が多い。御家族様のご協力もあり、お墓参りや法事などにも出掛けられている。1名の方は自宅への外泊もされている。	散歩やスーパー、ホームセンターへの買い物などほぼ毎日外出しています。ホーム内では洗濯物干しや草引き、水まき等日常生活の中でもできるだけ庭に出て日光浴をしてもらっています。また季節ごとの花見は家族にも声をかけ、一緒に出かけ楽しい外出になるよう支援しています。	

グループホーム天寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については被害妄想の引き金と為りかねない為、慎重に管理しているが、買い物へ出掛けられた際の支払いはお金を手渡し、可能な限りご自分で行って頂く様心掛けている。これは一つの社会との繋がり、参加であると考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話がかける事が出来る方はないが、送られて来た手紙のお返事を書いて頂くようお声掛けしたり、年賀状や暑中見舞いはがきと一緒に購入しに出掛け、ご自分で書いて頂くよう支援している。お手紙が一方通行にならないよう留意している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭で咲いた花やご近所様から頂く季節の花を玄関や共有スペースに飾ったり、共同作品を飾ったり、快晴の日の中は電灯に頼らず、可能な限り遮光の中で過ごすなど可能な範囲で自然な環境の中で過ごして頂いている。お庭に出て過ごす時間も多し。	玄関先に花壇の花や季節ごとの共同作品を飾ったり、リビングのソファの向きを変えて寛げるスペースを設け、台所も家庭的で温かい雰囲気を感じられます。広い庭とサンルームは開放感があり、日差しが強い場合はよすずで日よけをしています。また所々に段差をあえて残し日常生活でのリハビリに繋げています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの共有のテーブルより少し離れたところにソファを配置したり、座席配置も考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は馴染みのある家具をなるべくお持ち頂き、元の住まいと可能な限り同じ配置、雰囲気になるよう御家族様にお部屋作りをお願いしている。認知症の進行や状況やリスク回避に応じて熟慮した上で配置換えや撤去を行なう場合もある。その際は御本人、御家族様に了承を得ている。	タンスや鏡台、装飾品、写真など、できるだけ家庭から持ち込んでもらうように家族に依頼しています。部屋作りや模様替えは本人や家族に相談しながら行っています。明るく窓が大きく、景観が良く、外が見えるように椅子を置くなど居心地よく過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住宅改修型施設であり、バリアフリーではない事から、日頃より、本人の残している身体機能を引き出せる環境が元々備わっている。過剰な介護はせず、ご自分で出来る事は時間が掛かっても、「下手」であっても頂く。日常生活シーンの中にたくさんの生活リハビリ、身体的リハビリがある事を感じながら、リスク回避、事故防止対策も検討している。		